

こんにちは！

小平市立小平第二中学校
学校経営協議会

です

R7.12.4
No.4

①

会長
横山典子

コミュニティ・スクールだより (CS)



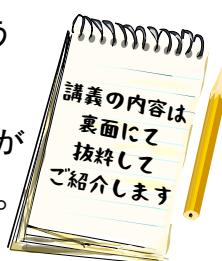
1 みんなで学びました、生きる力

快晴の11月15日(土)、東京大学名誉教授の汐見稔幸先生をお招きして、CS委員会研修会として、「生きる力」についてのご講義をいただきました。小平二中被服室にCS委員・二中教員・保護者・地域の皆様が、60名集まりました。汐見先生の面白くてわかりやすいお話に聞き入り、あっという間の1時間半でした。

「生きる力」がテーマではありますが、今回は特に、"中学生"に焦点を当てていただきました。ご参加の皆様から、事前にいただいた質問より、「反抗期」についてのご意見が多かったことから、そんなお話から始まりました。江戸時代の武士の子育てやヨーロッパのキリスト教徒の父母の役割の違いなどからご紹介いただき、「反抗期」についての考え方やコツを教えていただきました。反抗期のお話のあとは、見えない学力を育むための親と子の関わり方について、具体的に教えていただきました。



印象的だったのは、コミュニケーションの由来はコミュニケーション〈共同体・通じ合う〉からきているということ。ですので、コミュニケーションは"言葉のやり取りがるできること"ではなく、"心と心が通じ合うこと"であるというお話がありました。ただ言葉や情報を伝達するのではなく、心を通わせるコミュニケーション、意識したいですね。



講義終了後、ご参加の皆様からの質疑応答。どの質問も、未来あるこどもたちに対してどのように接していくことが望ましいのかというお悩みでした。先生からは丁寧な温かい回答をいただき、講義は終了いたしました。

ご参加の皆様からの事後アンケートからも、皆様それぞれのお立場からの「子育て」について考える、有意義な時間であったと感じております。汐見先生、ご参加の皆様、ありがとうございました。

※ コミュニティ・スクール (CS) = 学校経営協議会が設置されている学校
※ CS委員会 = 学校経営協議会





シリーズ 2 非認知能力ってなに？ Vol.3

汐見先生からの講義を受け、たくさんの学びがありました。すべてを載せることはできませんが、ポイントとなった、いくつかをご紹介します。



反抗期

- *そもそも反抗期自体は悪いことではない。自我の発達である。
 - *小学生の頃から、物事を親だけで決めず、こどもと相談して決めていくよう
にする。→反抗が大きくなりにくい
 - *中学生になったら、こども扱いせず、人権をもつ一人の人間として対応する。
(※注意：赤ちゃんの頃から人権はみんなあります)
 - *↑そのようにスタンスを変えることをきちんとこどもに宣言する。
 - *いい意味でこどもの議論相手・相談役になる。
 - *理不尽なことを言っていても頭ごなしにせず、なぜそう考えたのか
こどもの気持ちを考える。
 - *こどもに任せてみる。任されれば任されるほど自分で責任を取るようになる。
 - *体と心の成長がアンバランスな時期（体の成熟に対して心が追い付いていない）
でもあり、こども自身、不安や戸惑いがあるため、ズケズケと立ち入らない。



見えない学力を育むために

見えない学力（非認知能力）



- *正解のない問い合わせ・課題にその子らしい"適切な解をつくる"過程で身に付く
暮らし力・やりくり力



社会に出た時の仕事力・人間力の基礎になる



人生選択のヒントになるように本物の文化と出会うチャンスをつくる。
(社会が変化しても、自分の好きな世界・やりたいことをもっていることは大事)

健康的な生活習慣の促進。
バランスの取れた食事。
(最近は腸内細菌に注目が集まっている)
定期的な運動の奨励。

テレビのニュースの内容について親子で語り合う。
正解はない。おかしいとかなぜだろうと語り合う。世の中にあることに関心をもち、そして人それぞれ違う意見があることを学ぶ。

親が誇りをもって生きる。
押し付けではなく、苦労して
きたこともこどもに伝える。
苦労することの大切さを感じ
ることで成長につながる。

勉強の計画・仕方を塾などに依存しないで自分で考えるように励ましてみる。

コミュニティ・スクール（学校経営協議会）は、学校と保護者、地域住民などが力を合わせて子どもたちを育む「地域とともにある学校づくり」に取り組むための仕組みです。

